

9月9日は「救急の日」

# 「救える命」を救うために

心肺停止は、生死にかかわる危険な状態。そのまま放置されれば、数分のうちに命は失われてしまいます。しかし、医療機関に搬送されるまでに、その場に居合わせた人や救急隊員が、1分1秒でも早く、必要な応急処置を行うことができれば、その命を救うことができます。1人でも多くの「救える命」を救うために、救急現場で私たち1人ひとりができることを考えましょう

## 一刻を争う救命活動

呼吸が止まる、心臓が止まる  
それは、人間の生死にかかわる非常に危険な状態です。

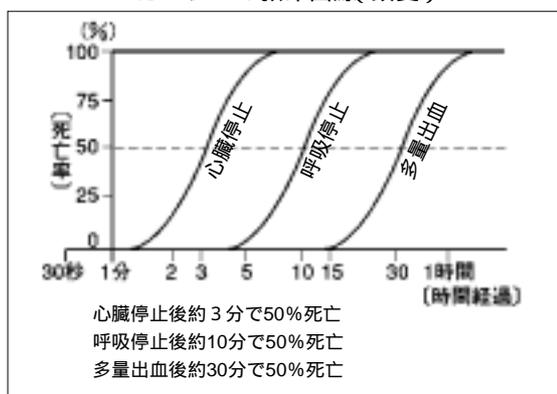
カーラーの救命曲線（下表）によると、心肺停止状態で応急処置が施されなかった場合、その死亡率は、心臓停止後約3分で約50%、呼吸停止後約10分で約50%となっています。しかし、そのわずかな時間の間で、1分でも早く、応急処置を行えば、その命を救うことができます。

そのためには、まず、その場に居合わせた人が、できるだけ早く119番に通報すると同時に、救急車が到着するまでの間、心肺蘇生などの応急手当を行う。そして救急隊がそれを引き継ぎ、より高度な救急救命

処置を行いながら、医療機関に搬送する。

この「救命の連鎖」を途切れなく、できるだけ早く、つないでいくことが重要です。

カーラーの救命曲線（改変）



資料：(財)救急振興財団「(改訂版)応急手当講習テキスト」

## 「救える命」を救う

全国の救急隊が搬送する心肺停止状態の疾病者は、年間約9万人（平成14年）。そのうち約4万人が、家族や救急隊員の目の前で心肺停止が確認されています。その人たちの命は、そこに居合わせた人、そして救急隊員が必要な応急処置を行うことによって、救うことのできる命です。

### 救命率の高い救急救命士

救急現場においてより多くの命を救うため、平成3年から導入されているのが「救急救命士制度」です。

救急救命士は、救急隊員の中でも、除細動（電気ショック）や器具を使用した気道確保などの高度な救急救命処置を行うことができる資格を

もった隊員です。

現在、全国では約5万8,000人の救急隊員が活躍していますが、そのうち1万3,728人が救急救命士の資格をもっています。

救急救命士による心肺停止傷病者の救命率は、一般救急隊員による救命率（3.9%）より2.7%も高い6.6%。救急救命士が行う高度な救急救命処置によって、心肺停止状態で搬送される患者の救命率は、確実に向上してきています。

### 普通救命・応急手当講習会

富良野消防署南富良野支署では、ご希望に応じて各事業所・学校・スポーツ団体・町内会・各サークルなどを対象にした次の講習会を実施しています。

町内に居住または勤務されている方であれば、少人数での開催にも対応します。突然のケガや病気に対する応急手当法を身に付けましょう。  
普通救命講習（3時間）

気道確保・人工呼吸・心臓マッサージ・止血法・その他）講習修了者には修了証カードを交付します。（応急手当講習（1～2時間））

三角巾法・止血法・その他

お申し込みは、富良野消防署南富良野支署 ☎52 2119まで。